

# 牛久：学校周辺に見る自然

第47号 中根小

2011年11月2日発行

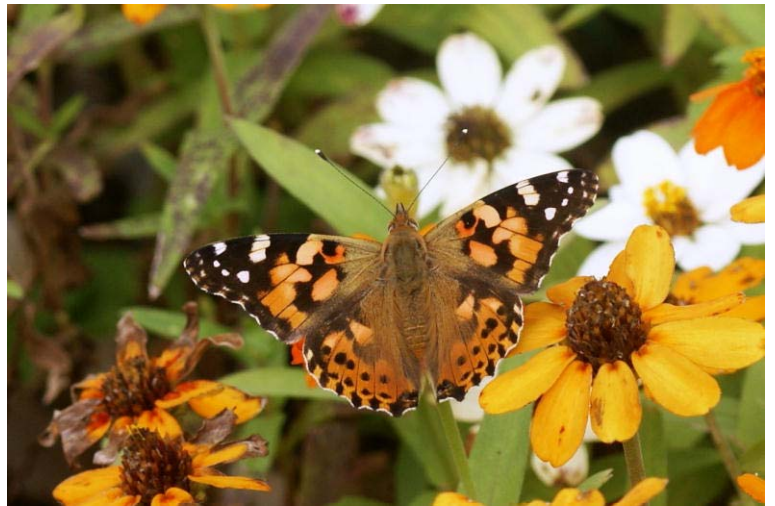
## < 秋の校庭で、生きもの観察 ～2. 動物 >

10/20、中根小4年生の秋の校庭観察。今回は、昆虫やカエルなど、動物たちの紹介です。



代表的な赤とんぼ。左はアキアカネ、右はノシメトンボ。胸の模様などで区別できます。

まずは、よく見られる赤とんぼ2種。左はアキアカネで、ナツアカネに似ていますが顔まで赤くなることはなく、胸の黒い模様が斜めに細くなっていきます（ナツアカネでは、とちゅうですぱっと切れる：22年度44号参考）。右はノシメトンボ、何度も登場していますが、はねのふちの大きな黒い模様が特徴でした。はねも、もうだいぶボロボロになっていましたね。



続いて、ウラナミシジミ（左）とヒメアカタテハ（右）。こちらでも何度か登場していますが、ともに南方系のチョウで秋に北上しますが、冬を越せないで、この季節にしかふつう見ることができません（44、45号参考）。

イヌタデの花みつを吸うウラナミシジミ（左：シジミチョウ科）と、花だんでコスモスなどの花みつを吸うヒメアカタテハ（右：タテハチョウ科）。



秋によく見かけるウラギンシジミ（左：シジミチョウ科）とチャバネセセリ（右：セセリチョウ科）。

こちらは、春から秋まで見られますが、特に秋に多く見かけるようになるウラギンシジミ（左）とチャバネセセリ（右）です。ウラギンシジミはモンシロチョウと同じくらいの大きさがあり、ガとまちがえられることもあります。シジミチョウの仲間。オスはこげ茶にオレンジ色の紋がありますが、写真はメスで、こげ茶にうすい水色の紋がありました。幼虫はクズやフジの花やつぼみを食べるそうです。チャバネセセリは草地や畑など開けたところに多く、ススキなどイネ科の葉をよく食べます。



そして、冬をのぞきほぼ一年中見られるヤマトシジミ。はねの表は光沢のある水色で、はばたくと光ってきれいです。幼虫はカタバミの葉を食べます。

←ヤマトシジミ（シジミチョウ科）。

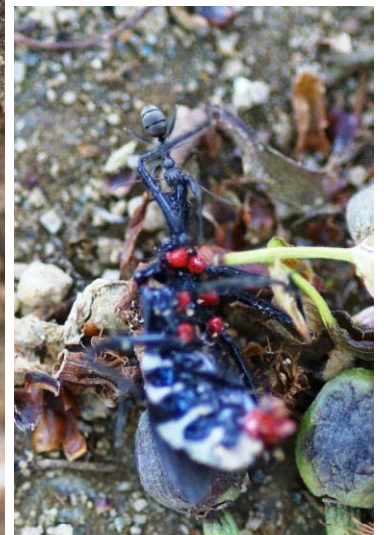
こちらにもよく登場するキタキチョウ。成虫越冬なので、春早くから、探せば冬でも見ることがあります。たい肥に水を吸いに来ていました。



キタキチョウ（シロチョウ科）→



いかにも毒がありそうですが、さされるとかなり痛いそうです。ヒロヘリアオイラガの幼虫ですが、1週間前にはヨコヅナサシガメに襲われているものも見られ、体液を吸われて、黒くミイラ化していました。そのサシガメも、死ぬとアリなどのえさになります。



樹木の害虫、ヒロヘリアオイラガ幼虫(左)。ヨコヅナサシガメに襲われる(中)。サシガメの死体を運ぶクロヤマアリ(右)



桜の木の根もとに、小さなみのがついていました。昆虫たちは、寒く乾燥<sup>かんそう</sup>した冬をやり過ごすために、みの中<sup>み</sup>で幼虫のまま冬を越すものや、まゆをつかってさなぎになるもの、そうしたものを作らずにさなぎで冬を越すものもいれば、卵で越冬<sup>えつとう</sup>するものもいます。そうかと思うと、成虫のままでじっとしているものや、幼虫のまま草の根もとなどにかくれていて、暖かくなると出てきて葉を食べたりするものもいます。きっと、それぞれ<sup>てきし</sup>の生活の中で、一番適した冬越しのしかたをするようになったのでしょう。皆さんなら、どうしたいですか？

**桜の根もとに小さなみ。このようなみを作るのは、みの虫の仲間だけでないそうです。**



バッタの仲間<sup>仲間</sup>はあまり見られませんが、クルマバッタモドキ<sup>クルマバッタモドキ</sup>がいました(左)。そして、ナナホシテントウ<sup>ナナホシテントウ</sup>も、寒いのか動きがにぶくなっていました(右)。

**グランドのすみで、クルマバッタモドキ(左)とナナホシテントウ(右)。**



ダンゴムシ<sup>ダンゴムシ</sup>も少し動きがにぶく、カタツムリ<sup>カタツムリ</sup>は、ふたを閉じてじっとしていました。

**← ダンゴムシ(左)と、ニッポンマイマイ(右)**



カエルはなかなか見つかりませんでしたが、さすがにおおぜいの目で探すとうごいすね。見つけてしまいました。春や夏にはたくさん見つけた、バッタ山の近くでアマガエルを。そして、木の穴の中でじっとしているものまで探し当てたのには、びっくりしましたよ。こげ茶色をしていて何ガエルかな?と思いましたが、もようをよく見ると、これもアマガエル<sup>アマガエル</sup>のようですね。なかなかの変身名人<sup>変身名人</sup>です。動物たちも、冬の準備<sup>準備</sup>をしていましたね。それぞれどのような冬越しをするのか、時々ながめてみましょう。なぜだろうって、疑問<sup>ぎもん</sup>が生まれたら、また聞きに来て下さい。【理科支援員 宮内】